

東建パブリニューズ

平成30年3月16日

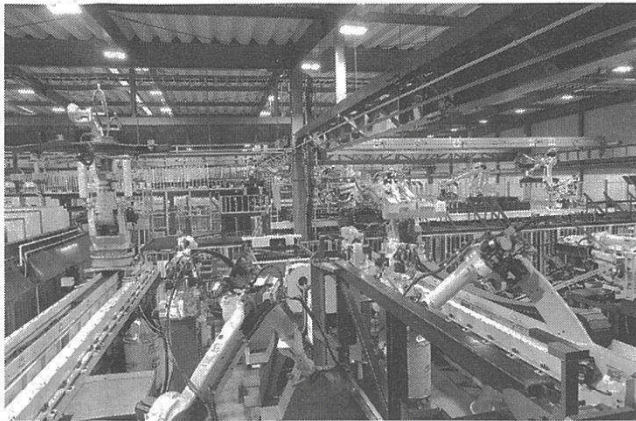
経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成30年3月12日 週刊住宅 P. 3

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。



深谷工場のスタッフは53人。7～10月が繁忙期

東建コーポレーションは、独自開発で特許を取った制震フレームと高耐力フレームを併用した鉄骨造賃貸アパートの生産能力を埼玉県内深谷市に集約する。グループのナストラックが全国5カ所に運営する工場の一つで、制震フレームのラインを新設して3月1日から「NK深谷工場」として稼働を始めた。

約1万坪の敷地に3つの工場を備えたもので、約2億円の設備投資により2階建てアパート換算480棟分に相当する2400枚の制震フレーム生産能力を確保した。兵庫県にあるシェルル神戸工場の制震フレーム生産ラインも集約し、設備の二重投資を回避しながら毎年2000～3000棟分を巡回速度で生産する予定。工場名のNKは、

東建コーポ

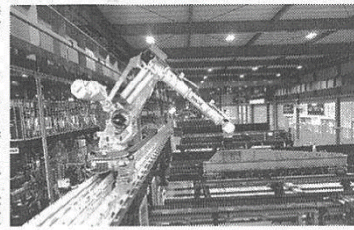
年間2400枚・480棟の生産能力

埼玉県深谷市に制震フレームライン新設

「制震十高耐震」アパート

「NK」は、耐震等級3の耐震性に加えて震度6程度の揺れを震度4程度に軽減するアパートとして展開している。このシェルルシリーズに使用する重量鉄骨と建具枠・造材材などの木質建材、鉄管杭の製造を行う主力工場となる。同工場の鉄骨製品の加工は、すべてコンピューター制御によって統合管理している。総延長337.5m・設置面積1350平方mのフルオートメーションラインは、製造工程だけでなく、搬送もロボット化して時間・材料の無駄をなくした。フルオートメーションラインには、16台のハンドリングロボットと19台の溶接ロボットを配置しており、8世帯分の2階建てアパートの梁・柱・

壁パネルを10時間で製造する。加工から組み立て、塗装、完成検査の工程で行われ、最後にロボットが作り上げた部材を人の目で検査する体制となっている。シェルルシリーズでの鉄骨部材には、鋼材に電流を流し、電気化学的にサビ止めの塗膜を塗る塗装方法で「耐用年数65年」の国土交通大臣認定を受けている。最新鋭の機器・設備も導入した。ロボット指示作業向けとして「ワイヤレスティーチングペンダント（ワイヤレスTPC）」を採用したほか、塗装工程のハンガー掛け用ロボットに700kgの重量ま



で搬送可能なロボットを導入した。いずれも自動車メーカーで使われているものの、建築業界として初めての導入という。鋼管杭の生産ラインを第3工場に設けた。総延長21m・設置面積315平方mにハンドリングロボットと溶接ロボットを2台ずつ配置して8時間で150本の製造能力を備えた。東建コーポレーションだけでなく、グループ外企業への販売を推進する予定。グループの東日本エリアの木質建材製造の拠点としても稼働する。島根県の「出雲タンク工場」で木質建材を製造していたが、東日本エリアへの配送で時間とコストのロスを減らす。